

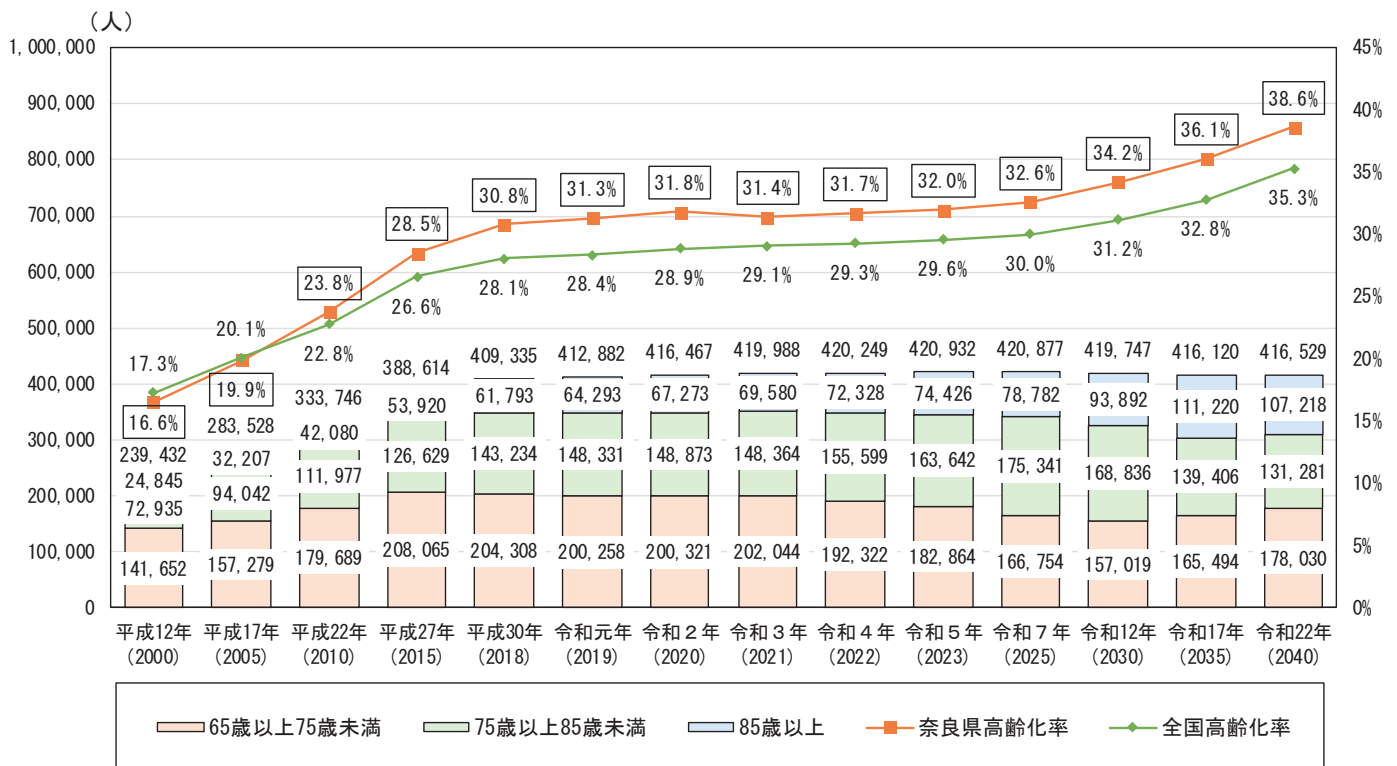
3. 県内の高齢者と介護保険サービスの現状

高齢者人口の推移及び将来推計

奈良県の65歳以上人口は、平成12（2000）年の239,432人から令和2（2020）年の416,467人まで一貫して増加しており、高齢化率は16.6%から31.8%に上昇しています。

今後、65歳以上人口は令和5（2023）年の420,932人、75歳以上人口は令和12（2030）年の262,728人、85歳以上人口は令和17（2035）年の111,220人が最大となる見込みです。ただし、65歳以上人口は令和7（2025）年にいったん減少に転じるものの、令和22（2040）年には再度増加することが予測されます。

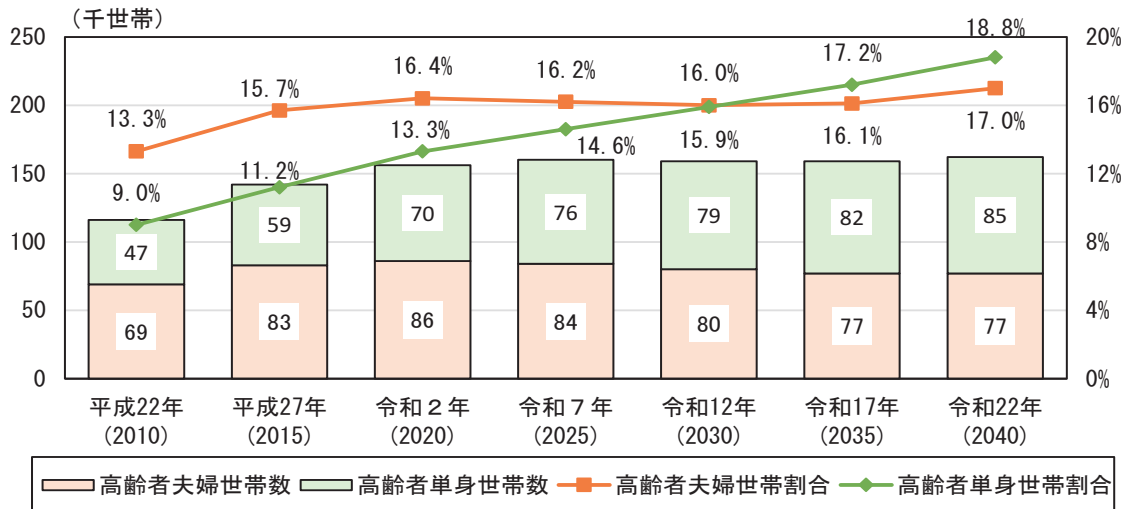
また、高齢化率は上昇していき、令和22（2040）年には38.6%に達する見通しです。



出典) 奈良県…平成12年～平成27年は国勢調査、平成30年～令和2年は奈良県推計人口年報
 令和3年～令和22年は各市町村において推計した数値の積み上げ
 全 国…平成12年～平成27年は国勢調査、平成30年、令和元年は推計人口（総務省統計局）
 令和2年～令和22年は国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口』（平成29年推計）

高齢者世帯数の推移及び将来推計

高齢化の進展とともに世帯構成にも変化が見られ、総世帯数に占める「高齢者単身世帯」の割合が増加しています。



高齢者夫婦世帯：世帯主の年齢が65歳以上の「高齢世帯」のうち「夫婦のみの世帯」

(ただし、平成22年は、夫が65歳以上妻が60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯)

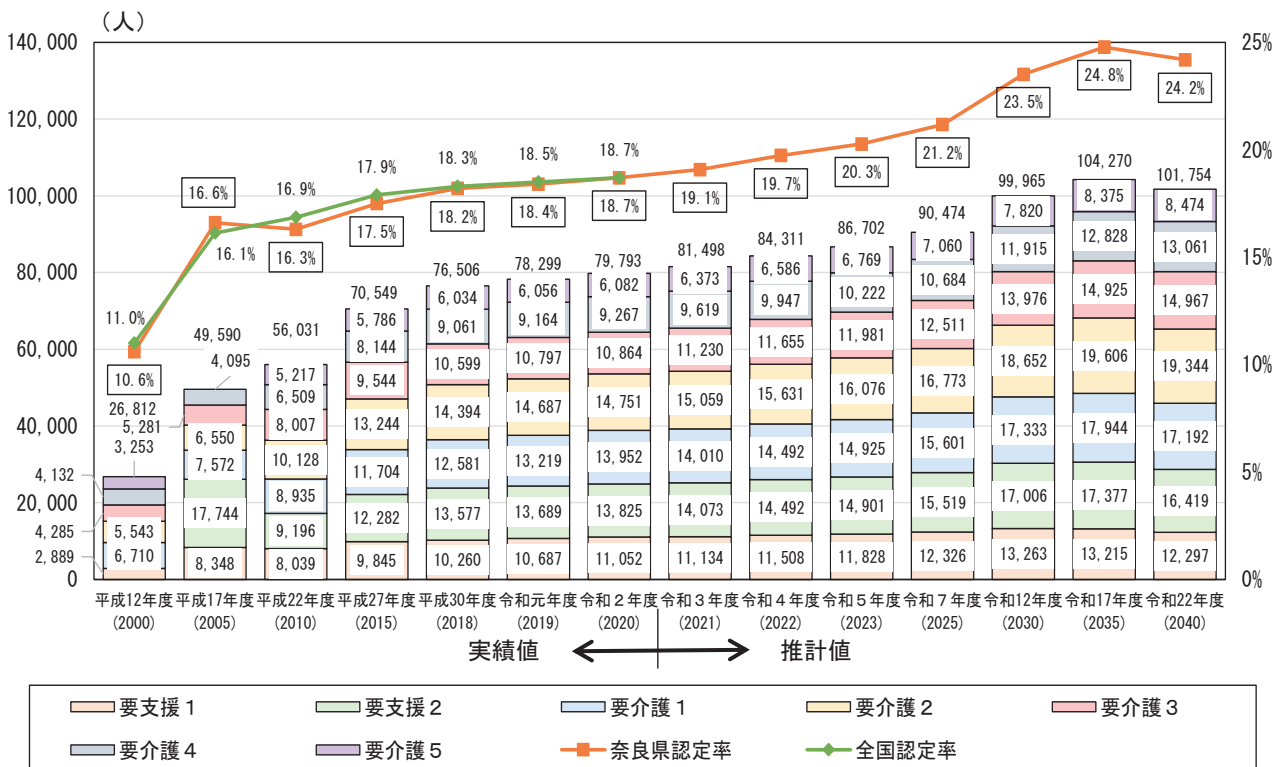
高齢者単身世帯：65歳以上の者1人のみの一般世帯

出典) 平成22年、平成27年は国勢調査

令和2年～令和22年は国立社会保障・人口問題研究所『日本の世帯数の将来推計(都道府県別推計)』(平成31年推計)

要介護認定者数の推移及び推計

高齢者数の増加とともに、要介護・要支援認定者数も増加しています。令和元(2019)年度末の認定者数は78,299人で、平成12(2000)年度の約2.9倍に増加しています。認定率については、平成22(2010)年度以降、上昇傾向にあるものの、全国平均をやや下回る水準で現在まで推移しています。



出典) 平成12年度～平成30年度は介護保険事業状況報告(年報)、令和元年度は介護保険事業状況報告(3月月報暫定値)

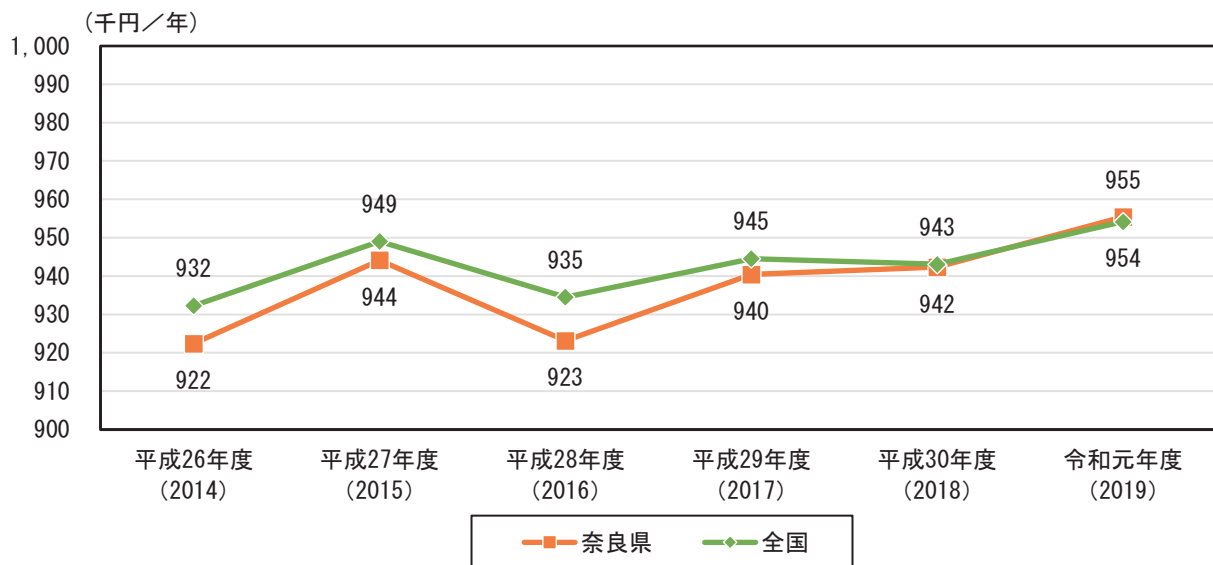
令和2年度は介護保険事業状況報告(12月月報暫定値)、令和3年度～令和22年度は各市町村において推計した数値の積み上げ

※認定者数は、第2号被保険者の要介護・要支援認定者を含む

※認定率は、第1号被保険者の要介護・要支援認定者数を第1号被保険者数で除したもの

一人あたり後期高齢者医療費の推移

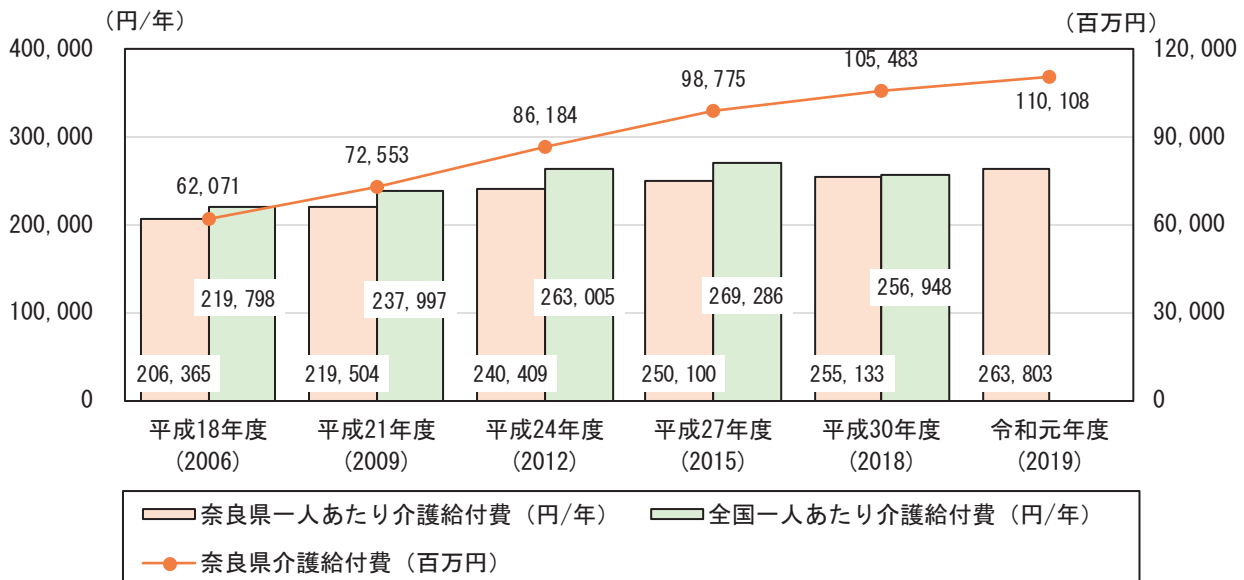
奈良県の一人あたり後期高齢者医療費は全国平均よりやや低い状況で増減しています。



出典) 平成26年度～平成30年度は後期高齢者医療事業状況報告(年報)
令和元年度は後期高齢者医療事業状況報告(月報)

介護給付費及び第1号被保険者一人あたりの介護給付費の推移

介護給付費は、要介護認定者数の増加に伴い年々増加し、令和元(2019)年度には約1,101億円で、平成18(2006)年度の約1.8倍となっています。第1号被保険者一人あたりの介護給付費は、令和元(2019)年度には約26万4千円で、平成18(2006)年度の約1.3倍となっています。



出典) 奈良県…介護給付費負担金実績報告
全 国…平成18年度～30年度は介護保険事業状況報告(年報)
※第1号被保険者一人あたりの介護給付費は、介護給付費を第1号被保険者数(各年度3月末)で除したもの